

第1講 はじめに

古代史偏重のギリシア史

世界史の教科書の扱い

古代史：374行

中世史：10行（西方教会とギリシア正教会の分裂・ビザンツ帝国における古代ギリシア文化の継承）

近代史：5行（独立戦争）

現代史：11行（第1次バルカン戦争・希土戦争・内戦とトルーマン=ドクトリン・1975年の民主制への移行）

近代西欧文明の源流

科学的合理主義

民主主義

リアリズムと理想主義的美

古代ギリシアを人類史における偉大な画期と位置づける

古代以降のギリシア史への関心の薄さ

近現代ギリシア史の周辺化

現代ギリシアのナショナリズム

誇るべき古代史とその遺産→西欧世界におけるギリシアの特権的地位を保証

西欧世界への帰属意識

トルコとの対立意識・メガリ=イデアの遺産

EU 帰属

現代ギリシアの問題

政治家への不信（特定の家系からの政治家排出）

地縁・血縁社会→コネの利く社会

国家財政の歳入・歳出欠陥→外国借款への依存

税負担の不公平：富裕者の税負担回避と庶民

観光産業への過度な依存

産業の衰退

若者の失業→海外流出

西欧へのあこがれと反感

ロシアへの親近感

中国資本の進出